

入新井第四小学校 令和6年度 研究主題

未来志向の児童育成を目指して
～デジタルを活用した主体的な学びの実現～

予測困難な時代を生きるこどもたちにとって、「社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働して解決していく意欲や資質・能力」の育成が必要となる。

児童の「学びたい」という意欲をどのように喚起するのか、1時間ベースとしない「単元研究」をどう創っていくのか、を中心に検討することによって、児童の学習の文脈に寄り添って支援するという新たな指導観への転換を図っていく。そのために、①PBLの重視と②単元や授業の導入の工夫をテーマに指導改善を行った。

目指す児童像

学び方を身に付け、自己調整を図りながら主体的に学習に取り組む児童の育成

研究授業

- ◎児童の実態に合わせた個別最適な学習（自由進度、けてぶれなどの多様な学習スタイルを可能にする学習環境を整える。
- ◎ICTを活用し、児童が、自身の心身の状況を振り返り、教員が児童一人一人の実態を的確に把握し、それぞれに応じた指導・支援を行う。
- ◎外部講師を招聘し校内で研修を行うことにより、個別最適な指導と評価の在り方について検証していく。

第3学年

総合的な学習の時間
「プラタモリ新井宿編
(地域自慢をしよう)」

(手だて)

- ・オクリンクプラスを活用して、児童一人一人のタブレットに地域の写真を送り、個々に合わせて調べられる工夫を行った。

(成果)

- ・個別最適な学びを行うことで「地域のおすすめをもっと調べたい。」という探究心をもたせる活動となり、すすんで調べようとする主体的な学びの姿が見られた。

第4学年

社会科

「自然環境を保護・活用する小笠原村」

(手だて)

- ・実際的小笠原の人とLiveで出会うという、体験型学習を通して主体的に学習に取り組む工夫を行った。

(成果)

- ・小笠原に住んでいる人からのLive中継が詳しく分かる内容となっていて、島の生活や様子、環境などについて児童の興味・関心を引き付けていた。
- ・「もっと調べたい」という疑問をオクリンクプラスを活用してカードにまとめ、たくさんの考えを共有する姿が見られた。

第6学年

社会科

「戦国の世から天下統一へ」

(手だて)

- ・児童が主体的に課題解決に取り組めるように、必要な資料を児童のタブレットに送り、個々で追及できる工夫を行った。

(成果)

- ・オクリンクプラスのジグソー方法を取り入れることによって、児童がそれぞれ調べたい資料をもとにして「織田信長、豊臣秀吉が天下統一をするために、どのような取り組みを行ったのか」についてすすんで課題探究する姿が見られた。

◎PBLの重視と単元や授業の導入の工夫を中心に、一人一台タブレット端末を中心とするICTを積極活用し、一部教科担任制を導入したことにより、一定の成果を得ることができた。